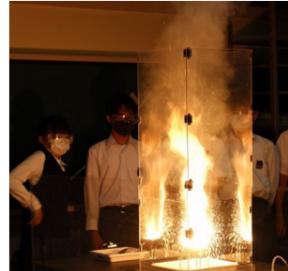


6月はあっという間に過ぎ去っていきましたが、和田中生は元気です！

7日(火)2年生理科出前教室
理科の授業ではできない素材を利用して酸化還元反応の実験を行いました。



ベンガラと炭素の粉を混ぜて加熱してできたものは何でしたでしょうか。



テルミット反応は、授業ではできません。降ってくる白い粉は何でしたでしょうか。



監督の先生がいて、教科の先生が教室に来て質問できるなんて知りませんでした。1年生には全て初めての連続でした。

21日(火)22日(水)は定期考査
1年生にとっては初めての定期考査でした。緊張感をもって臨むことができました。考査前のWADASTAをみるとテスト勉強を頑張っている様子が伝わってきました。3年生の提出物も良くなった?とか。気合が入りましたね。

24日(金)新体カテストを実施しました。気温30°Cに近い中でのテストでしたが、係生徒のスムーズな進行で、各クラスともに順調に終了しました。「シャトルランは？」授業中に実施済みとのこと、ちょっとほっとしました。



ハンドボール投げは全身を使います。



反復横跳びは案外難しい?!
力が入って、緊張する種目です。



立ち幅跳びは飛び出すタイミングが...

「ドテラ」も頑張っています！

地域本部主催の「ドテラ」、今年度は1年生が34名、2年生が11名、3年生が6名登録しています。日々の授業の復習や、各種検定に向けて、また定期考査に向けて等、様々な学習に取り組んでいます。テスト明けの25日(土)は30名が参加していました。3時間目の理科の「円筒飛行隊を飛ばそう」では、何度も作り直して、「高く」「遠く」を目指して挑戦していました。一番遠くに飛ばしていたのは1年生でした。円筒形の跳びやすい形や、投げ方の工夫など、机上だけに収まらない学習を楽しんでいました。あなたも「ドテラ」に参加しませんか？



季節の移り変わりを「命」で感じられる幸せ...



6月に入り、職員室の「あずま屋」に向かう扉を開けると、けたたましい鳥の声が聞こえました。南館の換気孔で今年もムクドリが子育てをしていました。24日の朝には、全く鳥の声がしなくなりました。巣立ちを迎えたようです。毎年5月には子育てを

していましたので、6月末まで幼鳥の声を聞くことができたのは嬉しい反面、心配になりました。今年、ウグイスの谷渡りが例年に比べ、1ヶ月近く遅くなったり、梅の木の実があまりならなかったり、「何だろう」と思うことも多くあります。が、緑に囲まれた和田中ならではの、季節の移り変わりを植物の芽吹きや動物の活動で感じられることは、嬉しいことです。小学生部活動体験では畑で「ヤモリ」を発見した生徒もいました。今年アジサイも長く咲いています。学校は「命」を育む場所でもあると実感しています。



自主貢献

第3号

発行日 2022.6.27

杉並区立和田中学校

大きな「意味」を持った運動会を終えて

「新しい伝統への一歩」

財田マーヴィン光純

私が掲げた今年の運動会のテーマです。

今年は、各学年2クラス編成となり赤と青の2チームに分けることができました。また、チーム旗を作成することで運動会への関わりを意識してこのような提案をして、実行に移しました。運動会を運営していくにあたり、最初は不安しかありませんでした。しかし、最初の学校練習でチャイムが鳴った瞬間の切替、生徒の視線、立ち姿、雰囲気を感じた瞬間「いける」と確信しました。全校練習後、村山校長と「和田中学校の生徒は純粋で一生懸命だよ。行進は手と足がここまで揃うとは思っていませんでした。ラジオ体操でも手まで意識して体操を行うことができている」と話をしました。本当にその言葉通りで、生徒たちは本番に向けて意識を高くもち運動会を成功させたいという気持ちが伝わってきました。その勢いのまま、運動会当日までの2週間、懸命に練習し勝利に向かって考え、よく話し合いをしていました。当日は言うまでもなく、生徒一人一人がよく輝き昨年度以上の良い運動会だと感じました。



さて、来年どうしようかと今から不安になっていますが、改めて生徒にとっては1年に1回の行事である運動会を、我々教職員はもっと大切にしなければならないと考えさせられました。来年はもっと感動することができるように、日々の教育活動に尽力していきます。

「できることへの喜び」から

松下 剛

この3年間、運動会には様々な変化がありました。

令和2年度は秋実施でした。コロナとどう向き合っていけばよいのか手探り状態の中で、それ以前のスタイルから大きな変化を求められた運動会でした。校庭のイチヨウの木から落ちるごみを拾いながら練習したことも今となっては良い思い出です。

令和3年度は開校70周年記念運動会でした。直前に発令された「まん延防止等重点措置」により、無観客開催を余儀なくされました。記念運動会を機に、全校生徒で作上げる種目を入れたいという思いから「マスゲーム」を始めました。

今年度、生徒の活躍を応援していただくことのできる運動会を開催できました。まだまだ配慮することはたくさんあり、「with Corona」に対応しながら企画した運動会です。

さて、この3年間の運動会スローガンを見ると、コロナに対する生徒たちの心情の変化が感じ取れるような気がします。

令和2年度「全員友笑 ～全員が友と笑える運動会～」

令和3年度「全力少年少女」

令和4年度「～巻き起こせ～ 優勝気流」



「できることへの喜び」から「クラスの団結や優勝」を目標とできる運動会への変化です。「with Corona」はまだまだ続くでしょうが、生徒たちが一生懸命になり、その姿を応援していただくことが保健体育科教員としての喜びです。

新しいスタート「和田中学校区地域教育連絡協議会」

6月7日(火) 第一回和田中学校区地域教育連絡協議会(地教連)懇談会が行われました。杉並区内各中学校区には、各中学校の地域教育連絡協議会が存在し、中学校を中心とした地域の取組が行われています。以前から「和田中学校のことがよく分からない」という声が小学生の保護者の皆さんや一部地域の方からありました。年々その声が大きくなり、青少年委員の皆さんを中心に、和田中保護者の会・地域支援本部・和田小PTA・杉十小PTA・済美小PTAの皆さんのご協力をいただき、2019年(平成31年)より、設置準備会として教育懇談会(2回)そして、ここ2年は、コロナ禍ではありましたが、小学生部活動体験を開催しました。そして、今年、5月19日(木) 第一回運営委員会を開催し、学区の地域の方を交えた和田中学校区地域教育連絡協議会が発足しました。



総会では予告なしで代表生徒一人ひとりが「立派」に自己紹介。感心の声が上がりました。

特に、特筆すべきは、他の協議会には見られない「構成員に生徒が含まれる」ことです。生徒たちが率直な思いや考えを、学校・保護者・地域に発信できると同時に、地域の一員であることを自覚できることです。これは、これまでに実施した「小学生部活動体験」での活動を経て、試行錯誤してきた過程で、自然と形づけられてきました。

7日(火)の懇談会では、小学生部活動体験実行委員から、出席された皆さんに、実際どのようなことを行うのかプレゼンがあり、また、生徒の自己紹介では一人ひとりの発言に「立派ですね。」と感心の声が上がりました。



受付にはたくさんの小学生が並び、実行委員の指揮も上がりました。

6月11日(土)小学生部活動体験

11日(土)は、天候が心配される中での開催となりました。が、サッカー部、テニス部の体験も無事に進行することができました。2年間の経験を踏まえ、当日は、ほとんどの運営を生徒実行委員が担い、スムーズに実施することができたことは、地教連の活動として、定着したことがうかがえました。また、「自分が小年生の時に体験して、すごく楽しかったから実行委員になった」という生徒も多く、コロナ禍の制限のある中ではあったものの、実施してきたことの意義も、改めて感じることができました。



「地域社会で生きる」一人の人間として、地域と共に活動し、「貢献」できる人材育成を目指し、和田中学校は新しい道をまた歩き始めました。

2年前の10月。発表の場が失われる中で、小学生部活動体験の閉会式が、最後の発表となったダンス部、吹奏楽部。本当に大変な年でした。今年もキレッキレのダンスを見せてくれました。

「中学生が優しかった」こんな声も聞こえてきました。2年前、1年生だった3年生、そして初の体験者だった2年生が中心となっていることも、感慨深いものがありました。



「大人」としてってどういうことだろう…

職場体験学習始まる

2年生の職場体験学習が始まりました。24日(金)事業所への事前訪問が行われました。事業所によっては29日(水)に実施します。普段、感染予防対策のためのジャージ姿を見慣れているためか、標準服で訪問先に出発する2年生の姿が、ちょっと大人に見えました。



廊下には求人票が貼られています。内容をよく読んでいる姿がありました。

前日の23日(木)には、杉並公会堂で行われた音楽鑑賞教室に参加しました。学年集団として行動するのは、1年ぶりでもあり、「大人」の行動を求められました。舞台から3・4列目という特等席で、テナー歌手の方の歌声を間近で「体感」し感激したり、アンコール曲の「ラデツキー行進曲を運動会の行進曲にしましょう」と財田先生に提案する生徒もいたり、一つ一つの体験を大切にできる和田中生らしい素直さを感じられました。

学年主任の岡本先生に「行動はどうでしたか？」と尋ねると、「まだまだ個々の課題はありますが、集団としては、とても良い行動ができていたのではないかと思います。」と返事が返ってきました。

さて、7月4日(月)から3日間の職場体験学習が始まります。それも3年ぶりの職場体験学習です。「働くということ」はどういうことなのか、を体験できる貴重な機会です。集団は小さくなりますが、音楽鑑賞教室以上に「大人」の行動を要求されます。体験を「自分の力に変えられる」2年生の活躍に期待しています。



事前訪問を終えての報告では、体験学習の開始時間、昼食についての確認をしました。

そして、決して忘れないでほしいことは、このコロナ禍に、中学生の体験学習を受け入れてくださった皆さんへの「感謝」の気持ちです。地域の中の一員として、どう行動すべきなのか、考えながら頑張ってください。

ご協力いただく29の事業所の皆さんです。(順不同)

- 救世軍ブース記念病院 和田小学校 堀ノ内東児童館 杉並児童交通公園 杉並区立郷土博物館
- 環境部 杉並清掃事務所 産業振興センター(成田農業自然公園) 高円寺図書館 宮前図書館 下井草図書館
- サミットストア和泉店 サミットストア妙法寺前店 トモズ東高円寺店 オオゼキ東高円寺 オオゼキ和田 花六(はなろく)
- 中野サンプラザ エンジェル高円寺保育園 障害者生活支援課 杉並区立なのはな生活園 こすもす生活園
- ブース記念老人保健施設グレイス ピノキオ幼児舎和田保育園 明愛保育園 明愛幼稚園 馬橋保育園
- 高円寺りとりばんぶきんず アスク西荻窪保育園 パピーナ西荻北保育園 グローバルキッズ荻窪保育園

よろしくお願いいたします。

この職場体験学習は、平成10年ごろから始められました。杉並区でも、それぞれの学校で、初めは生徒自身が色々な事業所に連絡を取り訪問したり、教職員を初め保護者の方が体験先を探したり、試行錯誤を繰り返して実施してきました。様々な変遷があり、今現在のように、事前・事後の訪問を含めて5日間の体験学習となりました。以前から体験先の事業所の確保は難しく、コロナ禍においては益々困窮を極めております。「子供たちのために」と、ご協力いただいた事業所の皆様、ご紹介いただいた地域の皆様、地域本部の皆様、感謝申し上げます。